

早期体験実習

看護実践の場または地域において、看護職者の仕事を観察し、自由に対話する中から、また看護を必要としている人々やその他の医療従事者・関連職種との対話から、さらに学生同士の討論や役割モデルとなる看護職者の口演などを通して、看護という職業の意義や社会における期待、必要性、そして今後の職業的準備のあり方について学習する。

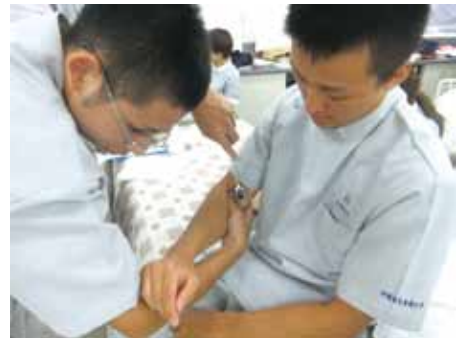


ウィメンズヘルスサイエンス

3年次後期に開講している科目で、助産師国家試験受験に必要な科目の1つに位置づけられ、助産師を目指す学生や女性の健康に興味のある学生が科目をとることができる。講義の内容は、女性の体の仕組みからはじまり、妊娠・出産の時期にある成人女性、思春期から中高年の女性に起こりやすい健康問題、月経の異常、性感染症、不妊症、更年期障害、ドメスティックバイオレンスなど幅広く学習する。助産の専任教員と産婦人科医（非常勤講師）が講義を担当している。よくある患者さんの事例を通して病気・検査を学び、患者さんへの対応・説明の実施や、また、若者対象の性教育の模擬授業など、参加・実践型の講義である。

ヘルスアセスメント

個人の健康状態を全人的に理解するために必要なヘルスアセスメントの概念と枠組みを学ぶ。さらにフィジカルアセスメントに焦点をあて、フィジカルアセスメントに関する基本的な知識、技術と態度を学ぶとともに、ライフサイクル各期に特有の方法と留意点についても演習を通して具体的に学ぶ。



専門看護職論Ⅰ

大学で看護学を学ぶ意味について考え、沖縄の看護の歴史と、本学の建学の精神、教育理念、教育目標を理解する。さらに、看護の歴史と専門職看護の概念と現状を概観し、人々の健康を守る社会活動の中の看護職の役割と関連他職種との協働・連携について学ぶ。



地域連携パスのイメージ